

日高管内の家畜伝染病発生に対する危機管理体制の整備

日高家畜保健衛生所 ○藤本彩子 宮澤国男¹⁾ 前田友起子²⁾ ほか

¹⁾ 現上川家畜保健衛生所 ²⁾ 現根室家畜保健衛生所

【現状】日高管内は、国内最大の軽種馬生産地である一方、軽種馬生産からの転換や耕種農業等との兼業による肉用牛生産も盛んである。また、大規模養豚場の新規進出もみられ、さらに、養鶏場は少数だが、大規模養鶏地帯である石狩及び胆振管内と近接する。このような特殊性を踏まえた家畜伝染病発生に対する危機管理体制の整備が必要である。

【課題】軽種馬は、輸入及び国際交流レース等、馬の移動に伴う海外からの伝染病の侵入リスクがある中、過去に軽種馬産業に甚大な被害を及ぼした馬インフルエンザ（EI）及び馬伝染性子宮炎（CEM）の診断、防疫対応の経験がない若手獣医師が増えている。牛及び豚は、海外からの人及び物等の移動に伴う口蹄疫（FMD）等の越境性動物疾病、また、国内外から豚熱（CSF）の侵入リスクがある中、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）も含めた防疫対応の経験がない道職員及び関係者が増えている。こうしたことから、家畜伝染病発生時の迅速かつ的確な防疫対応のため、防疫従事者の育成を継続する必要がある。

【取り組み】平成30年度より、課題を踏まえた机上及び実践的防疫訓練を行った。軽種馬は、EI及びCEM発生時の防疫対応をまとめ、若手獣医師に向けた教育用資料を作成した。作成に当っては、診断、防疫対応を経験した職員及び軽種馬関係団体等の獣医師の講話や意見等を聴取した。また、所内研修を行うとともに、近隣の家畜保健衛生所とも共有した。牛は、農場で、FMD発生時の通報から写真撮影までの所内訓練を行った。豚は、関係者を対象に、大規模養豚場でのCSF等の発生を想定した初動防疫のグループワーク等を行い、課題を精査した。鶏は、HPAI発生時の防疫衣着脱及び消毒ポイントの設置・運営を行った他、廃業した養鶏場で、捕鳥、殺処分及び鶏舎消毒の実務訓練を行うとともに、その内容を撮影・編集した防疫対応の教育用動画を作成した。

【成果・新課題】軽種馬は、EI及びCEMの防疫体制が整備された。今後、管内の若手獣医師に対し、講習会等で普及する。豚は、CSFに対する関係者の理解が深まった一方で、越境性動物疾病に対する危機意識に差がある事が判明したため、管内一円の防疫訓練等を継続し、意識の高位平準化を図る必要がある。鶏は、HPAI訓練で作成した教育用動画は、その後の防疫訓練等で活用しており、参加者の理解を深める一助となっている。引き続き、防疫訓練に未参加の道職員及び関係者の参加を促すとともに、参加者が理解しやすい工夫が必要である。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、人の感染症に配慮し、防疫訓練の短時間・分散化を図った。今後も、多様な状況に対応しながら、実行性の高い危機管理体制の整備・維持に努める。